

創刊  
春号

YUTOROGI quarterly April 1, 2006

# 季刊 ゆとろぎ

発行：羽村市教育委員会／企画・編集：羽村市生涯学習センターゆとろぎ+協働事業運営市民の会

# 誕生

新・楽学遊空間



# ゆとろぎ

羽村市生涯学習センター



羽村市生涯学習センター

# ゆとろぎ宣言

羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」は、  
すべての市民がゆとりの時間とくつろぎの空間のもと、  
一生涯を通じて楽しく学び合い、交流し、発信する  
豊かな知的創造空間を提供し続けます。

サロン

ギャラリー

工房

新・楽学遊空間

ゆとろぎ

ホール

アカデミア

ゆとろぎホール

ゆとろぎにはクラシックコンサートも開催可能な大ホール(856席)と多目的に活用できる小ホール(252席)があります。どちらも舞台を身近に鑑賞することができます。ゆとろぎは「全席がS席」を合い言葉にコンサートや演劇など、市民に喜ばれるイベントを提案してまいります。



◎推奨!

「津軽三味線」は、その歴史的背景と「叩く」ような演奏法がとくに有名だが、『津軽ちよんがら節』に代表されるように、ダイナミックでリズムカルな即興性に富んだ音楽として世界から高く評価され、多くの演奏家が海外のジャズブレイヤーやロックアーティストと前衛的な競演に挑んでいる。ときに激しく、ときに切々と語りかける津軽三味線の魅力を、是非、「ゆとろぎ」で体感してほしい。

「アーティストからの伝言」

岡田修の世界は、ステージを通して、肌で感じて欲しい。岡田修が三本の糸から創り出す音の世界は、まるで流れゆく河のようである。或る時は激しく、或る時は限りなく優しく、また、悲しく、それは留まることなく、過去からの音色を、今、そして、その先へと流れ進んでゆく。その流れは、聴き手の耳や頭のみならず、或るときには切なく、或る時には熱くなって心に染み込んでゆき、そこで、また新たな世界が創り出される。弾き手も、聴き手も、自在に泳げる空間が、そこに在る。今ではもう弾く人がいなくなってしまう古い三味線で、忘れていた何かを思い出し、オリジナルの曲では、明日への元気が湧いてくる。これが、岡田修の世界である。

小ホール

津軽三味線

「岡田修の世界」

日時 5月27日(土) 開場午後6時30分・開演午後7時  
会場 ゆとろぎ小ホール/入場料 一五〇〇円(全席自由)

小ホール

マサ(松田昌)教授の  
楽しいピアノ講義  
& 愉快的仲間

6月4日(日) 開場 13:30・開演 14:00  
会場: ゆとろぎ小ホール  
入場料: 一般 2500円/中学生以下 1000円 (全席自由)

「ピアノ」を知らない人は、多分、いないだろう。日本全国の幼稚園や小学校で音楽教育に使われ、子どもたちが初めて手にする「楽器」でもある。ハーモニカのように「呼吸」を音源として、ピアノのような鍵盤で音程を変化させる単純な構造と軽量で持ち運びが容易な上に安価なことで、一躍人気楽器となった。

松田昌さんは、ピアノの魅力に惚れ込んで25年も吹き続けている。音楽大学の教授になったいまでも、ピアノを正當な楽器として世界に広めようと日夜奮闘し続けている。マサ教授の夢はピアノで全国のライブハウスを巡ることとCDを出すこととベートーベンのお墓の前で演奏することだそうである。

だが、楽器としての歴史も浅く、バイオリンやピアノなどと比べると、「ああ、ピアノか」と楽器としての真の実力を認知されることなく不当に低い評価を与えられ、残念ながら社会的な地位は決して高いとはいえない。

大ホール

チャイコフスキー弦楽四重奏団

7月29日(土) 開場 13:30・開演 14:00 / ゆとろぎ大ホール  
入場料 一般/前売り 2500円・当日 3000円 (全席自由)  
高校生以下 1000円

※未就学児の一時保育(有料)あり。希望者は事前にお申し込みください。

06年は日本におけるロシア年です。この記念すべき年に、ロシア功労芸術家の称号を与えられたメンバーで構成される「チャイコフスキー弦楽四重奏団」がゆとろぎホールにやってきました。

ミハイル・ゴッディル(第1バイオリン)、レフ・マシロフスキー(第2バイオリン)、セルゲイ・バトウリン(ビオラ)、キリル・ロディン(チェロ)からなる「チャイコフスキー弦楽四重奏団」は一人ひとりが卓越した技量を有する世界トップクラスの四重奏団として高く評価されています。2本のバイオリンにピオラとチェロが奏でる、その繊細な音色と重厚な響きに加えて、実力派若手ピアニスト、浜野与志男をまじえたピアノ五重奏はクラシックファンだけでなく、初めて聴く人も新鮮な感動を与えてくれることでしょう。ゆとろぎ大ホールにふさわしいプログラムとして推奨します。

コンサート終了後、レセプションホールにて出演者を交えて市民のみならずとの交流会(参加費二〇〇〇円)も予定されています。普段、接する機会のない演奏家に直接お話を聞くことができますので、奮って、ご参加下さい。

大ホール

ラテン音楽の世界

ロス・インディオス&アリシア



6月17日(土) 開演 18:30 / ゆとろぎ大ホール  
入場料 前売り 2500円・当日 2800円 (全席自由)  
※未就学児の一時保育(有料)あり。希望者は事前にお申し込みください。

昭和の名曲を生み出したロス・インディオスの歌とトークを存分に楽しみたい。4月2日のオープニングイベントでもゲストとして登場した「ロス・インディオス&アリシア」がフルメンバーで出演。あなたを熱いラテン音楽の世界へご案内します。

ロス・インディオスに関するクイズや質問コーナーも用意。クイズ正解者にはサインやプレゼントあり! この他、ラテン特有の楽器紹介や体験コーナーもお楽しみ下さい。



ゆとろぎギャラリーは羽村市内外の芸術家はもとより市民アーティストも含めて、年間を通して作品を展示するアート空間です。開館記念にあたる第1回事業は羽村市在住の詩人で絵詞(えことば)作家の内田麟太郎さんの講演会と絵本画家・降矢ななの原画展をお贈りします。

主催：羽村市教育委員会／企画運営：羽村市生涯学習センターゆとろぎ+協働事業運営市民の会

# 絵本『ともだちや』原画展

## ～内田麟太郎・降矢ななの世界～

会期 4月18日(火)～30日(日) 9:00～17:00

会場 ゆとろぎギャラリー(入場無料) ※24日(月)休館

羽村市図書館開館5周年記念事業

『ともだちや』の原作者

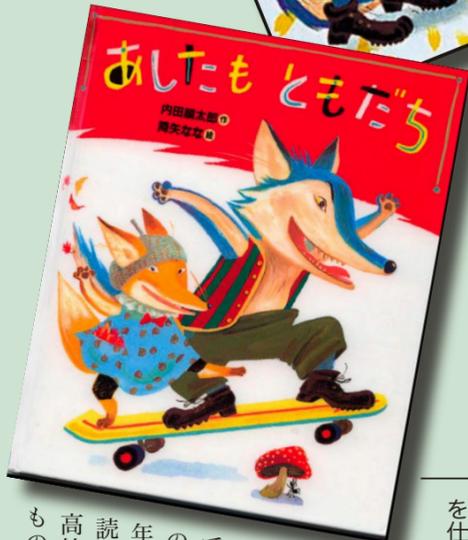
## 内田麟太郎さんを囲んで

日時 4月23日(日) 開演 14:00

会場 ゆとろぎギャラリー(入場無料)

※講演会のみ小学生以下の入場はお断りします。

『ごめんねともだち』『あしたともだち』  
作・内田麟太郎／絵・降矢なな(偕成社刊)



心優しいキツネさんとちよっと強面のオオカミくんの迷コンビが登場する『ともだちや』(作・内田麟太郎／絵・降矢なな／偕成社刊)という絵本シリーズが、いま人気を博しています。

ゆとろぎギャラリーの開館記念企画は、この『ともだちや』の原画展と内田さんの講演会です。併せて、図書館ボランティアのみなさんによる「絵本の読み聞かせ会」も行われます。講演会は「ゆとろぎ」とともに羽村市民の生涯学習の一翼をになう羽村市図書館の開館5周年記念事業の一環として行われます。素敵な原画を鑑賞しながら、原作者の原案以上におもしろい(?!?)お話をお楽しみください。講演会の後でサイン会も予定。

みんな、おいでよ!

## 絵本の読み聞かせ会

4月22日(土) 開始 11:00

23日(日) 開始 13:30

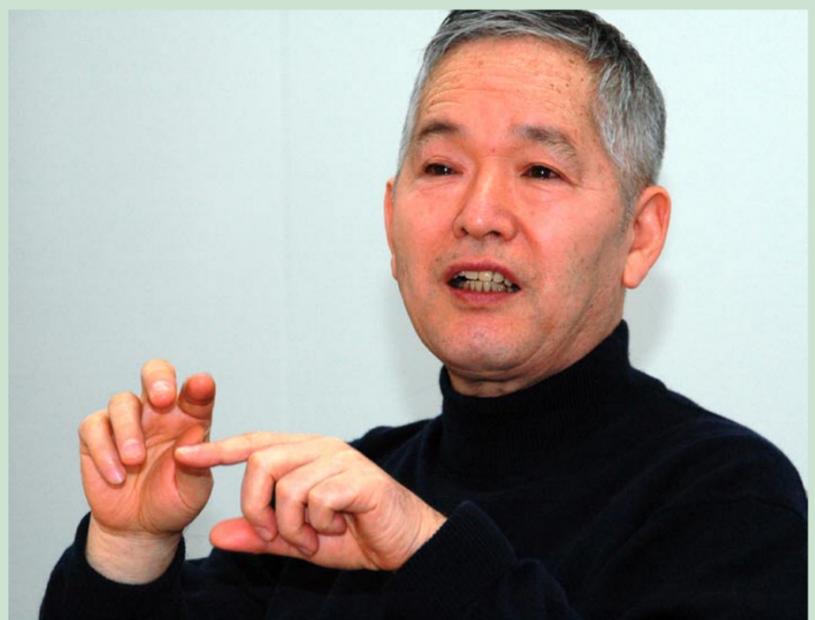
29日(土) 開始 11:00

会場 ゆとろぎギャラリー(入場無料)

## 一足先に聞いてみた!

絵詞作家・詩人

# 内田麟太郎さん



内田麟太郎(うちだ・りんたろう)さん

1941年、福岡県大牟田市生まれ。絵詞作家・詩人。主な作品：『さかさまライオン』(第9回絵本にっぽん賞受賞／童心社)、『うそつきのつき』(小学館児童出版文化賞受賞／文芸春秋)、『ぶきやぶきやぶー』(講談社)、『十二支のおはなし』(岩波書店)、詩集『うみがわらっている』(銀の鈴社)、詩集『なまこ饅頭』(無極堂)など多数。

えー、ともだちやです。ともだちは いりませんか……

で始まる『ともだちや』(偕成社刊)は98年1月に初版が発行されてから昨年までに49刷を重ねるロングセラー。原画展と講演会を機に原作者の内田麟太郎さんを仕事場にお訪ねした。

内田さんは福岡県の大牟田市に生まれた。お父さんが看板職を営むかわら詩人としても知られた人で、その影響があったのだからか、麟太郎少年は絵を描いたり、本を読むことが好きだった。高校を卒業して上京したものの、諸般の事情で進

学をあきらめ、生活のため中野で看板職人の道を選ぶ。折しも、高度経済成長を迎えた頃で結構繁盛した。結婚し子どもも生まれ、それなりに幸せな毎日を送っていた。

ところが、30歳代の終わりの頃、仕事中に脚立ごと倒れて大怪我を負い、病院に担ぎ込まれるという不運に見舞われる。幸い一命は取り留めたが、再起不能の瀬戸際をさまよい、「再び看板職人は無理」と宣告される。突如家計が逼迫。内田さんは思案算段の末に文筆業を決意。若い頃から詩を書いていたこともあって、一念発起、童話作家を目指すことに。

当初、出版社に原稿を送ってはみるものもなかった。相手にならなかった。あるとき、公募コンテストの開催を知って応募作を送った。落選。しかし、その後2回連続して入選し、作品がめでたく雑誌に掲載される。その時、審査員の一人が内田さんに好意的な批評を書いてくれ、「10年、書き続けなさい」と励まされたことで、これまで書き続けられたという。

賞こそ取れなかったが、出版社からようやく仕事の依頼がくるようになる。初めて振り込まれた原稿料は嬉しさのあまり銀行からすぐに引き下ろすと、クッキーの空き缶に入れて本箱の上に置いた。「筆筒貯金」ならぬ「空き缶貯金」だ。しかし、家計は奥さんの収入が支えなかった。

あるとき、お世話になった編集長から「ナンセンスでないものを」と頼まれた。内田さんはとっさにある原稿を思い出した。それはアイデアが閃いてから折々に練っていたもので、仕事場のメモボードに押しピンで貼り付けたままになっていた。後に、この原稿が編集長の期待通り内田さんの「新境地を」開拓することになる。家計も新境地を得た。



「アカデミア」は広く市民の生涯学習を支援する学習空間です。市民の暮らし・生活にかかわる問題、芸術・趣味の講座、学習・教養教室、地域社会の問題などをテーマにさまざまな学習・創作活動を提案していきます。



コーディネーター 西田小夜子さん

1941年、東京都生まれ。武蔵野美術大学短期大学部美術科卒業。画家、作家、「定年塾」代表。定年退職した夫の生活態度に疑問・ストレスを感じたのをきっかけに、数多くの定年夫婦への取材を基にした『定年漂流』（西多摩新聞社）を出版、大きな反響を呼ぶ。2004年7月『定年夫は、なぜこんなに「じゃま」なのか？』（ソニー・マガジズ）、05年9月『定年漂流』（小学館文庫）を出版。05年3月より東京新聞・中国新聞にコラム「妻と夫の定年塾」を連載中。執筆のかたわら講演やテレビ、ラジオ出演などで全国各地を飛び回っている。

# 6月開講

## 明るい「定年」を迎えるための総合講座 (全7回)

開講日 6月10日(土)～9月2日(土)  
10:00～12:00(第1・第5・最終回は13:00～15:00)  
会場：生涯学習センターゆとろぎ  
受講料：各回一人1000円  
(7回分前納の場合：6000円)  
募集定員 各回40名  
(応募多数の場合は抽選)

「定年危機(クライシス)」。会社から解放され、「まずは休息」と思っているうちに余る時間に戸惑い、これからどう過ごしていけばいいのか判らない。気がつく、一日をもてあまして、テレビの前でごろごろ過ごしている。なんだか妻からはうっとうしがられているようだ。仕事一途、家庭や近所つきあいは一切妻まかせでできた人にとって、他人事ではない問題ですね。「ゆとろぎ」では、定年後の人生設計をみんなで考えようと、定年後の年金や保険、生活資金などライフ

プランニングの学習会、輪になって語り合うフリートキングを含む「明るい『定年』を迎えるための総合講座」を6月から全7回で開講します。コーディネーター兼講師の一人に、定年夫婦の様々な生き方や葛藤をノンフィクション風の小説『定年漂流』に著して大反響を呼んだ、作家の西田小夜子さん(羽村市在住)をお迎えします。全講座受講が原則ですが、単独回の受講も可能です。定員は各回40名。全講座受講で受講料前納の場合には大幅な割引受講料も用意しました。

全講座を通して、「観て、聴いて、話して」いられるうちに楽しく学ぶことができるように、また、受講者同士が親しく交流できるように工夫されています。第1回は、ノンフィクション作家の西田小夜子さんをコーディネーター

回	開催日	講座名	講師・コーディネーター
1	6月10日(土) 13:00～15:00	プロローグ「どうする定年後？」	西田小夜子氏(ノンフィクション作家)
2	6月24日(土) 10:00～12:00	ライフプランニングⅠ(保険の基礎知識と運用)	山本健二氏(シニア・ライフ・プランナー)
3	7月8日(土) 10:00～12:00	ライフプランニングⅡ(身近な税金の知識)	根岸良子氏(公認会計士)
4	7月22日(土) 10:00～12:00	ライフプランニングⅢ (知っておきたい社会保険と年金)	伊藤道太郎氏(社会保険労務士)
5	8月5日(土) 13:00～15:00	いろいろな定年後の過ごし方	西田小夜子氏(ノンフィクション作家)
6	8月19日(土) 10:00～12:00	夫婦についての法律制度	近藤智孝氏(弁護士)
7	9月2日(土) 13:00～15:00	エピローグ「みんなで定年後を語ろう！」	西田小夜子氏(ノンフィクション作家)

に迎え、定年を取り巻く「落とし穴」と「成功例」をユニークな方法を使ってお話いただき全体の導入とします。第2回以降は現職のファイナンシャルプランナー、公認会計士、社会保険労務士、弁護士などの専門家を講師に迎え、定年後の家庭経済の賢い運営方法や法律知識など、定年を迎える前に「知っておきたい知識」を学習します。また、みなさんのさまざまな疑問・質問にもお答えします。固い話ばかりではなく、第5回講座ではふたたび西田さんを迎えて、「定年後の自分の生き方」、「家族との付き合い方」、さらには「身近な社会参加」など個々の例を具体的に語っていただきます。最終講座でも西田さんをコーディネーターに迎えて、第2回以降の講師陣も加わって、「私たちがこのように明るく生きていこう」をテーマに全参加者で意見交換しながら交流を深めていただきます。受講対象は、定年を目前に控えた人はもちろんのこと、「定年」に関心のある人ならば年齢は問いません。できればご夫婦での参加をお勧めします。受講の申し込み・問い合わせは「生涯学習センターゆとろぎ」へ。

※受講の申し込み・問い合わせは生涯学習センターゆとろぎ ☎042-570-0707

# サロン

「ゆとろぎ」の「サロン」は市民のみなさんが気軽に集い、語り合い、交流する空間です。気軽なミニ・コンサートを開催したり、あなたの旅の経験談や故郷自慢を披露し合ったり、仲間を募って新しいことにチャレンジしたり……、市民と市民が交流する場です。あなたが主宰するのによし、リクエストするのによし。

## 5月のサロンでトーク

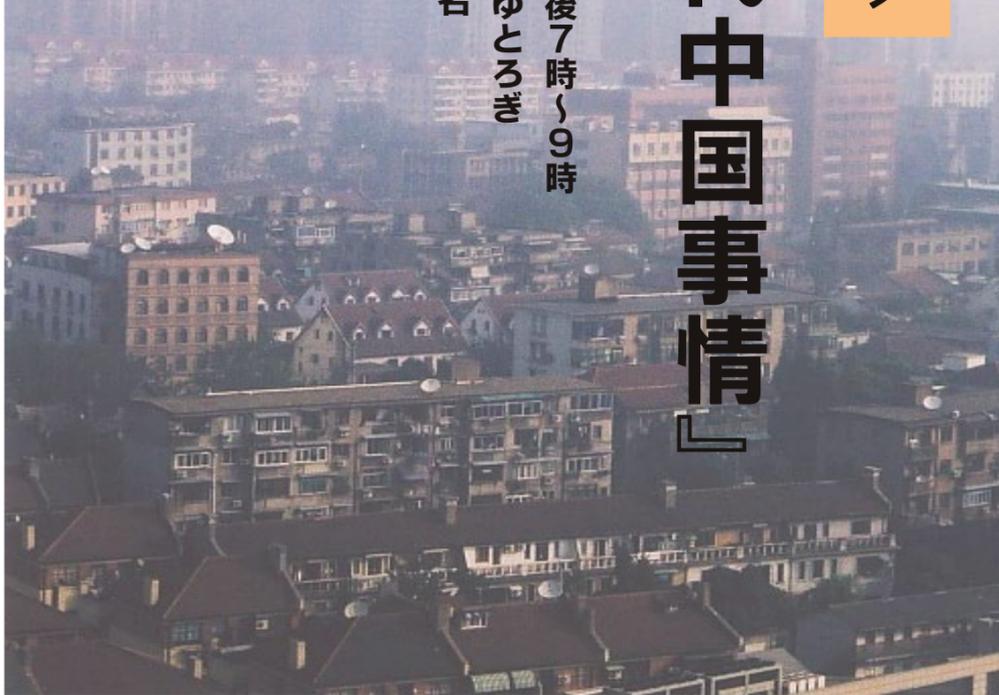
# 『体験的現代中国事情』

ゲスト 安達武史さん

開催日 5月13日(土) 午後7時～9時

会場 生涯学習センターゆとろぎ

参加費 500円 定員50名



### 安達 武史(あだち・たけし)さん

1939年長野県長野市生まれ。  
1960年3月東京農業大学短期大学卒業。  
1960～74年秋田県職員(農業改良普及員)  
1974～81年国際協力事業団(JICA)職員  
1981～99年農林水産省職員  
1999～05年独立行政法人国際協力機構(JICA)中国派遣専門家(農業普及)  
羽村市在住。羽村男女共同参画推進会議委員。

13億の人口を抱え、いま、驚異的なスピードで経済成長の道をひた走りに走る中華人民共和国。その経済発展を背景にして、08年にはアジアで3度目の五輪、北京オリンピックの開催が決まり、10年には上海万国博覧会の開催が予定されるなど、急速に世界へ門戸を開きつつあります。

日本企業の誘致が相次ぎ経済面でも協力関係が深まり、観光旅行もかなり自由に行けるようになってきました。日本に対する反感は根強いようです。はたしてホンネはどこにあるのでしょうか？ 『サロンでトーク』の第1回は、羽村市在住の安達武史さんをゲストに迎えて、現代中国の素顔の一端をお聴きします。安達氏は6年にわたって、独立行政法人国際

協力機構の農業指導者として中国に滞在し、農業指導のかたわら、中国の人々と生活をともにしながら、大変革を遂げる現代中国の農業社会を肌で体験してきました。一市民が肉眼で見た、肌で感じた現代中国の一般市民のなまの姿を語っていただきます。

## サロンでアートしませんか？

# 押し花アート教室

第1期 5月～7月(全6回)

毎月第2・第4木曜日(午前10時～正午)

募集人員：20名

受講料 各回1000円～2000円(教材費を含む)



皆さんの押し花に対するイメージはどのようなものですか？昔からある、本や電話帳に挟んで作る押し花を思い描いている方が多いのではないのでしょうか。

近年、押し花技術は進歩しました。乾燥技術や保存技術はもちろん、科学の力を応用し、花の美しさ・色をそのままに簡単に押し花ができるようになりました。草花以外にも果物や野菜、木の皮なども押し花にすることができます。

庭で育てた草花を押し花にして、花絵額や小物、押し花はがきなどを作ってみませんか？アイディア次第で色々な楽しみ方ができます。きっと自然の植物の美しさを再確認できることでしょう。そして、押し花の楽しさを一緒に追求していきましょう。

※参加・受講の申し込み・問い合わせは生涯学習センターゆとろぎ ☎042-570-0707へ



「ゆとろぎ」では絵画や陶芸、手芸、文芸などのあらゆる創作活動の場を「工房」と呼びます。市民のみなさんの興味関心にお応えできるようにさまざまな教室を順次開講していきます。参加人数によっては市民のみなさんからの講座のリクエストも可能です。有志を誘ってリクエストしてください。

## パソコン教室・・・5月から順次開講

講座名	対象	受講料	開催日	内容
パソコン講座 全6コース	初心者 各15名	1コース 4日間で 1500円	5月5日から 毎週金曜日 午前10時～12時	<b>決定!</b> ○パソコンの「いろは」から学習します。キーボードにまったく触ったことのない人もOKです。
パソコン教室B	経験者 20名	準備中	準備中	○トラブル対応法やよりレベルアップした使いこなし術を学びます。ご自分のPCを持参下さい。
パソコン教室C	初心者 10名	準備中	準備中	○再就職を考えている人、職場復帰の予定のある人を対象にパソコンスキルの習得を支援します。 ○平日の午後コースと夜間コースを準備中です。

## 初心者アート工房・・・6月以降順次開講

講座名	対象	受講料	開催日	内容
陶芸教室 A 全12回	初心者 各20名	準備中	隔週木曜日 午前9時～12時	○陶芸にまったく未経験な方を対象に、まずはともかく自分の作品を作ってみます。土の固まりから作品を生み出す喜びを感じてください。 ○土曜コースと木曜コースのどちらか都合のよい方を選んでください。
陶芸教室 B 全12回			隔週土曜日 午前9時～12時	
油絵教室	初心者 15名	準備中	6月～11月 第1・3水曜日 午後1時～4時	○基本のデッサンからスケッチ、キャンパスの使い方まで油絵の基本を習得します。きっと油絵の魅力に引き込まれること請け合いです。
とんぼ玉体験教室	初心者 20名	準備中	準備中	○いま、大変な人気の「とんぼ玉」制作をまずは体験していただきます。
水彩画教室	初心者 15名	準備中	準備中	○手軽で楽しい「水彩画」を始めませんか？静物を描くのもよし、スケッチもよし。水彩画で旅行の楽しみも広がりますよ。
日本画教室	初心者 15名	準備中	準備中	○日本画の基礎から修得できます。水墨画とも水彩画とも違う日本画の世界をのぞいてみませんか？
親子陶芸教室	小中学生の親子 30名	親子で 1500円	7月23日制作 8月6日絵付 8月13日合評会	○親子で土と戯れ、陶芸製作に汗を流せば、親子のコミュニケーションもバッチリ！

※受講申し込み・問い合わせは生涯学習センターゆとろぎ ☎042-570-0707へ

**■受講にあたっての「注意」■**

- 受講希望の人数ナンバーは陶芸教室とパソコン教室です。いずれも多くのみなさんに参加していただけるように、開催日別に複数のコースを用意しましたので、あなたにとって都合のよいコースを選んでください。ただし、2つのコースにまたがっての受講はできません。
- 講座は短期のものど長期のものがあります。ご自分の都合をよく考えて受講をお申し込みください。
- 受講希望者が少ない場合は講座が「中止」になることがあります。
- 受講希望者が多数の場合は「抽選」となることがあります。
- 受講希望者は往復ハガキに
  - ① 受講希望の講座名
  - ② あなたの住所・氏名・電話番号
 を記入の上、左記の「ゆとろぎ」へお申し込みください。
- 受講料は最初の受講時に「現金」で納入してください。受講料を受領した時点で受講を認めます。
- お申し込みいただいた講座が「中止」ときは受講料は全額返還致します。
- 講座が不成立の場合を除いて、一旦納入された受講料の「払い戻し」は致しません。
- 受講の申し込み・お問い合わせ先

羽村市生涯学習センターゆとろぎ  
〒205-0003  
羽村市緑ヶ丘1の11の5  
☎042-570-0707



「ゆとろぎクラブ」はゆとろぎ事務局と市民のみなさんとの交流のための空間です。事業についての感想・批判もOK。事業のリクエストも大歓迎です。あんなことこんなこと、わいわいがやがや、市民のみなさんからの投稿もお待ちしています。

## あなたの“力”を貸してください。

新生「ゆとろぎ」は羽村市民一人ひとりの生涯学習を支援するために、芸術鑑賞事業、学習・文化事業、展示事業、情報発信事業を市民ボランティアと生涯学習センターが協働して推進していきます。そのために「ゆとろぎ」は各事業の企画・運営に主体となって協力していただけるボランティア・スタッフを求めています。あなたができる範囲で構いません。あなたの「力」を貸してください。「ゆとろぎ」を育てるのは「あなた」です。

## あなたの知識や経験、技能、特技を「ゆとろぎ」で発揮しませんか？

「芸術鑑賞事業」は主に大小のホールを使って、コンサートや芝居などの企画を立案し実行していただきます。音楽・演劇に興味のある人、あるいは造詣の深い人に最適です。あなたが聴いてみたい、観てみたいと思うコンサートや演劇を実現してください。「学習・文化事業」は「暮らし・生活」「学習・教養」「芸術・趣味」「地域社会」をキーワードにして、パソコン教室や陶芸教室といった講座から講演会などの文化事業を幅広く企画し運営していただきます。あなたが自身が「講師」になることも可能です。

「展示事業」は主に展示室（ギャラリー）を使って、絵画展や写真展などの美術鑑賞事業を企画運営していただきます。あなたのユニークな感性を活かしてください。「情報発信事業」はインターネットや月刊・季刊の広報紙を媒体にして、「ゆとろぎ」で行われる事業・イベントを市民のみなさんに伝える活動を行っていただきます。このほかにも、「ゆとろぎ」ではさまざまな活動を行っています。スタッフに特別な資格は要りません。しいて言えばあなたの「熱意」です。

## 必要な資格はあなたの“熱意”です。

編集室から  
■『季刊・ゆとろぎ』をご覧ください。『季刊・ゆとろぎ』は姉妹紙の『月刊ゆとろぎ』とともに生涯学習センターゆとろぎの事業紹介はもとより、市民のみなさんの生涯学習に役立つ情報を積極的に発信していきます。市民のみなさんのご支援をよろしく願います。■さて、生涯学習センターゆとろぎがオープンしました。3月25日から5月7日まで開館祝賀行事が行われています。既に、「ゆとろぎ」に足を運んだ方もあるのでは？いろいろな催しが連日予定されていますので、二度、三度とお運び下さい。■「ゆとろぎ」が主催する事業の多くは、市民ボランティアが企画運営しています。あなたも仲間に入りませんか？また、「こんな講座をしてほしい」「あんなアーティストを呼んでほしい」など、市民のみなさんのリクエストも大歓迎です。ご希望の方は「ゆとろぎ」までご提案ください。あなたの夢の実現に向けてスタッフが協力します。でも、実現しなかったときはご容赦下さい。

### 季刊ゆとろぎ ● 春号 (創刊号)

2006年第1号通巻1号  
2006年4月1日発行  
発行 ■ 羽村市教育委員会  
企画・編集 ■ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ  
+ 協働事業運営市民の会  
〒205-0003  
羽村市緑ヶ丘一十一五  
☎042-570-0707  
印刷 ■ (株) 東光社  
東京都北区東田端一二十二  
編集に携わった人 ■ 石川雅大 / 井上寛子 / 江久保千英 / 笠原優子 / 小林靖子 / 関沢和代 / 土肥和代 / 日下まや / 平田栄一 / 平原克己 / 船橋瑛 / 古沢義隆 / 山本豊 / 横田轟 / 渡部清孝  
写真 ■ 土肥和代 / 平田栄一 / 村山利夫  
協力 ■ 羽村市図書館  
無断転載を禁止します。  
Copyright © 2006 by YUTOROGI  
All rights reserved.